

○議長（中村 敦君） 次は、質問順位 3 番、1 つ、スポーツ振興について、2 つ、健康づくりについて。

以上 2 件について、2 番 大西將由君。

〔2 番 大西將由君登壇〕

○2 番（大西將由君） 清新会の太西將由です。通告に従い、一般質問させていただきます。

本日は、大きく分類しまして、スポーツ振興についてと健康の在り方についての質問となります。

まず初めに、スポーツ振興についての質問から始めさせていただきます。

近年、野球、サッカー、バレーボールなど、あらゆるスポーツにおいて海外で活躍する日本人選手が増えています。その具体的な場面としては、皆さんも御承知のとおりオリンピック、ワールドカップ、世界選手権などが挙げられます。特に、ここ最近を振り返りますと、F I F A ワールドカップサッカーやワールドベースボールクラシック、略称 W B C での日本チームの活躍には大いに感動させられたものです。

このように、自分が経験したことのない競技であっても、観戦していてついつい興奮して力が入ってしまいます。やはりスポーツは、アスリート自身はもちろんのこと、コーチやスタッフ等の関係者、そして応援団や我々一般の視聴者に至るまで充実感を与え、心を盛り上げ高揚させ、さらには共同意識や一体感のようなものも芽生えさせるような、非常にすばらしいものだと感じさせられます。

このことは、議員となった立場から、そもそも自分が生活するこのまち下田のスポーツの実情は、どのような状況、環境に置かれているのだろうと改めて考えさせられるきっかけになっております。私自身、今後「ひとづくりと生きがいくくり」を主題に、まちの活性化や将来の住みよいまちの在り方につなげるという着眼を大切にしたいと考えています。

さて、スポーツ振興に関してですが、入りの部分でしっかりと意識しておかなければならないことがあると思っております。それは「誰が、どこで、どのようなスポーツを」ということです。特に「誰」に当たる主体についてです。

これは大きく分けて 2 つあると思います。1 つは下田にいる「市民が」、もう一つは「市民以外の人が」ということです。さらに細かくしていきますと、「大人が」「子供たちが」「高齢者が」「家族が」などなど、様々な属性に細分化されますが、その主体の部分に留意する必要があると思っております。

我がまち下田のスポーツについて、まず端的に思うこととして、1 つ目には、下田から多

くのトップアスリートが育ってほしい、出てきてほしい、このように思うわけです。また、その可能性は十分にあると思います。

サーフィンを取り上げますと、現に下田出身のプロサーファー、大野修聖さんは日本を代表する選手になっております。そのほかにも多くのプロサーファーをこのまち下田は輩出しています。

また、昨年度には下田中学校に全国２番目のサーフィン部が立ち上がりました。「世界一の海づくり」を標榜する下田市として、市民の生活文化として根づきを与えるような、まさに「ひとづくり」に関する特筆すべき動きだと思っております。そして、部員も昨年の20名から、本年は県内外からサーフィン部に入るために下田に移住してきた３家族の子供も含め29名と、しっかりと確保されていることから分かりますように、市民の中には何かしらのスポーツに対する潜在的なニーズ、力が眠っているのではないかと考えさせられます。

「習うより慣れよ」「学ぶより真似ろ」という言葉を耳にしますが、上達するにはよい指導者が必要なことはもちろんのこと、よいお手本があることも必要であると思います。サーフィンについては、美しい海と下田中サーフィン部のような土壌づくりもできつつあり、指導者に恵まれていると言えるかもしれません。

また、サーフィンについてですが、先日の報道によりますと、「サーフタウン構想」についての記事が出ておりました。これについては私も考えていたところがあり、市民の中でも、今以上に社会人から高齢者に至るまで、サーフィン愛好者の裾野が広がっていくとよいと思いますし、市民に限らずサーフィン人口の拡大で需要が喚起されれば、サーフィンに必要な用具一式やレストハウス、食事場所、駐車場、さらには宿泊施設などの供給側の整備も必要となります。

また、これに伴う雇用の拡大にもつながる可能性がありますし、さらにはサーフボードを抱えた多くの人たちが、まちを行き交う風景のありさま、いわば景観形成、まちづくりにも連動してくると思います。

そこで質問をさせていただきます。

１つ目として、サーフタウン構想については既に全国で幾つかの市町が取り組んでいます。下田市として今後どのように構想を描いていこうとしているのか、構想づくりは行政主体なのか、あるいは海づくり全般でも構いませんが、それらの展望について伺います。

さて、下田のスポーツの現状に感じる２つ目のこととして、サーフィン以外のスポーツに関しては、大学、実業団、プロチームというものが存在しておらず、また練習施設もほぼな

いため、市民がレベルの高いプレー等をじかに見て体感できるような機会がほとんどないということです。

最近では、7月16日に下田中学校において卓球の静岡ジェードの森藺政崇選手による講習会が行われ、大変好評だったと聞いております。

そこで質問をさせていただきます。

2つ目として、ここではあえてスポーツ以外の分野、学問や芸術に至るまで幅を広げますが、令和4年度の1年間の実績で構いませんが、下田市ではプロの選手や文化、芸術のトップといたしますか、著名な方を招いた市民向けの講習会等を主催、講演を含めてどの程度行っているのか、その種目、種類についてお伺いをします。

次に、これらに関連してですが、今の下田市において一番持続可能性が高く、有意義な機会として挙げられるトップアスリートの誘致といえば、プロ野球広島東洋カープの秋山翔吾選手の自主トレーニング、略称、自主トレがあります。20年以上前から今の埼玉西武ライオンズ球団と交流のあった吉佐美に会社がある社長さんが、当時、西武ライオンズの選手として河津で自主トレをしていた秋山選手に、来年はぜひとも下田で自主トレを行って欲しかと依頼したのが8年前です。その翌年から西武ライオンズでの4年間と、メジャーリーグでの2年間、そして昨年、広島東洋カープに移籍してからの合計7年連続で、1月に下田で自主トレに励んでいただいております。

その秋山選手を慕い、他の球団で活躍している選手も含め、数多くの若手や女子のプロ野球選手がこの自主トレに帯同し、下田に来てくれています。来年も来られる予定と聞いています。

そこで質問をさせていただきます。

3つ目として、答えられる範囲で構いませんが、秋山選手の来年に向けた誘致の状況はいかがでしょうか。また、秋山選手ほか帯同選手も含めた子供たち、あるいは指導者向けのコーチングなど、滞在期間中の企画的なことを行政として何かお考えがあるかについてお伺いをします。

4つ目として、市の所管かどうかは分かりませんが、もしデータがあればお教えいただきたいのですが、昨年度1年間で、下田でスポーツ合宿を行った社会人、大学生の合計チーム数、合計人数、下田での滞在期間や宿泊日数についてお伺いをします。

ここまではスポーツ振興、特にサーフィンの事例、トップアスリートを招いての人づくりや子供たちの育成、トップアスリートの誘致の継続性などについてをテーマとしてきました

が、ここからは視点を变えて健康づくり、特に運動・スポーツ習慣化促進について質問をさせていただきます。

10年前の2013年4月の下田市における65歳以上の高齢化率は、人口2万4,230人に対して8,550人で約35.3%でしたが、10年経過した今年2023年4月においては、人口1万9,963人に対して8,523人で、42.7%にまで達しています。さらにこれを65歳以上でなく60歳以上とすると約50%となり、下田市の人口の約半分が60歳以上ということになります。

近年では「人生100年時代」とも言われますように、いつまでも活躍の場があり健康でいたいと思うわけですが、やはり年齢を重ねるにつれて疾病や認知症、介護など様々な健康的なリスクを抱えてしまうのは避けて通れないことであり、経済的な面からも医療費負担なども念頭に置かなければならないと思います。

疾病に関しては、最近では比較的若い世代の40代、50代でも糖尿病による透析やインスリン治療等を行っている方も増えていると聞きます。いわゆる生活習慣病については、さらに若い世代から意識した生活を送る必要があるかもしれません。

生活習慣病については、一般的にはふだんの食事や運動不足に原因があると言われてますが、ある程度の年齢を重ねてからではなく、先ほど申し上げたとおり、できるだけ早い年齢から心がけ、対策していきたいと思うわけです。

東京に住む知人とまちを歩いた際に感じたことですが、向こうの人は歩く速度が速いということと、ある程度長い距離を歩き慣れているということです。

ふだんの通勤から電車を乗り継ぎ、これを何本か乗り継ぐ間に自然と相当な距離を歩いているということですが、一方で、ここ下田の通勤スタイルはどうでしょうか。もちろん地域性もあり車通勤の方が多く、通勤時に長い距離を歩く人は決して多くないのではないのでしょうか。自分で意識してウォーキングなどをしない限り、明らかに都会の人に比べ運動不足になっているのではないのでしょうか。ある意味、運動・スポーツの無関心層が一定割合存在している状況があるのではないのでしょうか。

そこで質問させていただきます。

健康づくりに関する1つ目として、まず下田市における過去3年間の40歳から74歳の方の特定健診の受診状況についてお伺いするとともに、所管課としてその受診結果をどのように評価されているのかについてお伺いをします。

2つ目として、現在、市として生活習慣病対策として、市民向けにどのような取組を行っているかについてお伺いします。また、それらの対象者、参加人数、そして実施後の市とし

ての実施評価はどのようなものでしょうか、お伺いします。

そして3つ目として、運動・スポーツに特化した健康対策事業習慣病対策事業の有無について、これがある場合の市としての今後の実施可能性についてお伺いをします。

最後に、スポーツ振興とまちづくり、人づくり、健康づくり、そしてこれらに必要な施設的なものの整備も関係してきますが、スポーツ全体に関する将来の設計図のようなもの、いわばグランドデザイン的なものが必要になるのではないかと考えておりますが、行政としてどのようにお考えでしょうか。特に、生涯学習課の役割は重要だと思いますので、生涯学習課を中心にスポーツ振興に関するグランドデザインをお考えいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

以上をもちまして、私の趣旨質問とさせていただきます。

○議長（中村 敦君） 当局の答弁を求めます。

市長。

○市長（松木正一郎君） 議員の御質問のうちのスポーツに関して、私のほうから理念的なところを申し上げます。

スポーツの持つ様々な力、あるいは効用、こういったものを今後の下田の活性化ですとか、まちづくりに活用していくということは、本当に大切な観点であろうと思います。

例えば、障害のある方であってもパラリンピックだとか、あるいはそこまでレベルが高くなくてもふだんからそのスポーツをして、場合によっては海で子供たちと一緒に泳ぐという、そういう意味もあって昨年の夏、白浜でパラサーフィンの大会があったんですけど、私はそこへ行きまして、その障害、体に障害のある人たちが、そのアスリートとして頑張っているという姿を見たり、あるいは車椅子を浮く形にしているというのを、ちょっとその小さな実験を去年やって、今年はそのバリアフリービーチの社会実験をちょっと大きくしたところでございます。

スポーツ基本法に基づく地方スポーツ推進計画という、こういうものがあります。つまりこれは議員御指摘のその先を見据えた全体計画、これはスポーツとしてのマスタープランになるわけですが、まちづくりマスタープランになるんですけれども、この法的な計画の策定を来年度、令和6年度から担当課であります生涯学習課を中心にして取り組む、この予定になってございます。このほかにつきましては、担当課長から申し上げます。

○議長（中村 敦君） 企画課長。

○企画課長（鈴木浩之君） それでは私のほうから、サーフタウン構想について御説明をいた

します。

下田市は美しい海浜環境や首都圏からのアクセス性等を生かしまして、多くのサーファーが訪れるマリンスポーツのメッカと言われてまいりました。ここ下田市は、日本サーフィン連盟の酒井理事長や、四半世紀にわたって日本サーフィン界を牽引している大野修聖プロなど、多くのトッププロサーファーを輩出するとともに、多くのサーファーが訪れる聖地でもあり、サーフィンのために移住してくる方も最近増えている現状にございます。

また、昨年には統合した下田中学校に、全国で2番目となりますサーフィン部が創設されるとともに、オリンピックで金メダルを獲得したカリッサ・ムーア選手も訪れ交流を深めるなど、様々な事業が展開されております。

今回、東京オリンピック・パラリンピックの開催により、下田市がサーフィンのホストタウンとなったことで、改めて下田の海が持つ魅力や可能性がクローズアップされたものと認識をしております。この東京オリンピック・パラリンピックホストタウンのレガシーづくりを検討する中で、サーフィンを下田のアイデンティティーとして、まちづくりの柱に据えることが必要という御意見を多くの皆様からいただいたところでございます。これを受けまして、下田市としましてサーフタウン構想、現状は仮称でございますが策定し、サーフィンを切り口としたまちづくりを検討していきたいと考えているところでございます。

サーフィンを生かしたまちづくりの構想や計画につきましては、2018年にI S A世界選手権を開催した愛知県の田原市、オリンピック会場となった千葉県の一宮町、宮崎県の日向市など各所で策定をされているところでございます。

構想の策定につきましては、今年度、東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進協議会のサーフィン関係者を中心とした作業部会で、まず構想案を作成し市に提言をいただく予定としております。9月の19日にはこのキックオフといたしまして、サーフィン関係者をはじめどなたでも御参加いただけるワークショップを開催し、この検討に入っていきたいと考えております。

来年度はこの協議会からの提言を受けまして、広く市民の皆様、関係者の皆様の御参画を得て、市の構想としてまとめるとともに、構想の実現に向けて事業を進めていきたいと考えております。

今回のサーフタウン構想につきましては、スポーツとしてのサーフィンにとどまらず、サーフィンを核として自然、環境、文化、教育、交流、健康など幅広い分野の活動を連携させた動きにしていきたい、こう考えているところでございます。

今回、構想策定と併せまして、下田市の恵まれたサーフィン環境を生かしたソフト事業はもちろんのこと、ハード整備や、今後さらに増えるであろうインバウンド客への対応、下田市独自のサーフカルチャーなどについても検討を進め、この構想がより実りのあるものになるよう進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中村 敦君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（平川博巳君） 私からはスポーツ振興について、まず令和4年度におけるプロスポーツ選手や文化、芸術におけるトップ、著名な方などによる市民向けの講習会等の実績と、秋山選手の自主トレに伴う市の対応など、また社会人、大学生のスポーツ合宿の昨年度の状況について、それで健康づくりに伴う部分では、運動・スポーツ習慣化の促進についての質問で、運動・スポーツに特化した健康対策事業の有無についてお答えいたします。

初めに、令和4年度において下田市及び教育委員会が主催、講演をしたプロのスポーツ選手の講習会等の実績ですが、こちらはサーフィン、サッカー、野球、車椅子バスケットボールなど4件としております。同じく主催、講演をした文化、芸術のトップと言われる著名な方という部分で招いた、市民向けの講習会というのは開催されていないとしております。

秋山選手への対応としては、本年同様の歓迎幕の作成を予定しております。市の野球連盟を通じて少年野球教室を開催していければと思いますが、あくまでも自主トレが優先されるものとして、企画的なことは柔軟に対応できればと考えております。

続きまして、昨年度のスポーツ合宿についての部分ですが、地域おこし協力隊の合宿誘致に伴うものと、あと敷根公園、市民スポーツセンター、吉佐美運動公園の各施設の利用状況から把握した合宿の状況といたしまして、合計で35チーム、人数的には3,680名、滞在期間が114日、宿泊日数が77日となりました。詳細につきましては、後ほど資料のほうをお渡しいたします。

次に、運動・スポーツに特化した健康対策事業、習慣病予防対策事業として、特に運動・スポーツの無関心層を対象として実施している事業は、スポーツ推進委員により行われている、主に高齢者を対象としたグラウンドゴルフであったり、ボッチャ、ニュースポーツなどの教室、大会等の事業が該当すると考えております。

運動やスポーツの習慣化が健康増進や習慣病予防につながることから、運動に興味、関心を持たせ、市民のライフステージに応じたスポーツ活動の推進を図るため、庁内関係課による検討を行いたいと考えております。

私からは以上です。

○議長（中村 敦君） 市民保健課長。

○市民保健課長（斎藤伸彦君） 市民保健課からは、健康づくりについての中から、過去3年間の特定健診の受診状況と、所管課としての評価をまずお答えさせていただきます。

こちら特定健診の受診率からですが、令和2年度に22.5%、こちらは法定報告になります。令和3年度に25.9%、そして令和4年度、昨年度につきましては暫定値ではありますが31.7%となっており、コロナ禍に落ち込んだ時期があったんですが、コロナ禍前の水準まで回復し、受診率といたしましては近年では高い受診率となる見込みとなっております。

それについての所管課の評価といたしましては、下田市としての受診率というものは向上しているものの、他市町と比較した場合、さらに受診率の向上を目指す必要があると考えております。

平成30年度に策定しました、下田市データヘルス計画におきましては、平成35年、令和5年度のことですが、令和5年度には目標値を40%としており、現在は31.7%ですので、さらに現実に向けて事業を推進してまいりたいと考えております。

次に、現在、市として生活習慣病対策でどのような取組を行っているか、対象参加人数、市の評価をお答えということでしたので、生活習慣病の対策ということをお答えさせていただきます。

生活習慣病の対策としましては、県の東部地区や賀茂地区は下田と同じような傾向がありまして、肥満、高血圧、糖尿病を代表する生活習慣病に課題のある地域と認識されております。そのため県におきましても健康増進対策ということを実施しておりまして、市も県と同様に対策を行っております。

まず、下田市におきましてはポピュレーションアプローチ、これは多くの方が少しずつ生活改善することによって、集団全体をよい方向にシフトさせることなんですが、その方策としましては、虫歯予防、骨粗鬆症予防等並びに糖尿病等重症化予防講演会です。ほかにポールウォーキング教室、体操教室を実施しております。延べ参加人数は、令和4年度ですが101人となっております。

そしてもう一方、ハイリスクアプローチ、こちらは既に健康にリスクを抱えた人をスクリーニングいたしまして、当該する方に行動変容を促すという対策でございます。こちらは国民健康保険の保険事業としまして、先ほどの特定健康診査を受診した方を中心に、高血圧を改善するのが必要な方たちに高血圧予防改善教室、また生活習慣病予防及び糖尿病等重症化

予防事業という事業を実施しまして、取組をしております。また、病院への受診勧奨の対象というものには受診勧奨させていただいており、令和4年度については197人に病院受診のお勧めをしております。

生活習慣病予防の評価というものにはなかなか難しい面もあるんですが、高齢化の進んだ下田におきまして、高齢者のみの対応を考えるのではなく、より若い世代からの啓発活動というものが必要だと考えているところです。

以上となります。

○議長（中村 敦君） 2番 大西將由君。

○2番（大西將由君） ありがとうございます。

スポーツ振興についての答弁に対してですが、まずサーフタウン構想についてはこれからということになりますが、もちろん行政だけではなく民間、商店とかまた地域などを巻き込み、意見を聞きながら構想を策定していただきたいですし、構想を立てるだけの話し合いだけで終わってしまっては意味がありませんから、構想が実現されるようにスケジュール、工程を意識して、行政として強力にバックアップができるような取組を進めてほしいです。そしてさらなるプロのような上級者の育成等、サーフィン愛好者の裾野を広げる工夫をお願いいたします。

次に2番目として、スポーツ、文化、芸術の1年間の実績についてですが、プロや著名な方を招いた主催、講演の実績数は分かりました。ありがとうございます。

先ほど申し上げたとおり、私はまちの活性化のためには人づくり、生きがいくりの視点が重要で、様々な分野に関わる人の裾野の拡大が経済的効果を生む、波及すると思っております。

そこで続けて質問をさせていただきますが、将来活躍する可能性のある子供や、興味、関心を持ち得る可能性のある子供たちのために、スポーツや文化、芸術などの講演会の今後の在り方などについて、どのようにお考えになるのかお伺いいたします。

○議長（中村 敦君） 企画課長。

○企画課長（鈴木浩之君） まず、サーフタウン構想の御要望という形でお受けしましたが、当然ながらこの構想は行政が行政目線でつくるということではなく、下田はまさにメッカでございますので、サーフィン関係者、マリンスポーツ関係者、皆さん大勢いらっしゃいますので、その方たちの参画を得て、官民一緒になってつくって進めていくという形で心がけたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（中村 敦君） 教育長。

○教育長（山田貞己君） 子供の時代からあらゆるスポーツですとか、またスポーツだけではなくて芸術、文化について自分の目で見て、聞いて、肌で感じる体験、こういったことを重ねることは極めて大切なことだと思っております。

大西議員のおっしゃる「ひとづくりと生きがいくくり」、これはとても共感できる心強い言葉であると私も感じております。具体的に、先ほど生涯学習課長から一部話はありましたけれども、例えば今学校現場では、スポーツ分野においては、これは学校ごとの取組になりますけれども、ラグビーのレガシー事業の一環として、静岡のブルーレヴズのコーチを招くですとか、子供の体力向上事業として陸上の短距離指導をしていただく、また市の体験プログラム補助金を活用してサーフィンやサップの体験、オリパラレガシー事業で陸上の走り方指導をしていただく、さらには車椅子のバスケットボール日本代表、北間選手の体験実演講演会、卓球の静岡ジェードの実演講習もありました。そういったプロの選手、それから競技の専門家に講師として来校していただく、そういった取組がありました。

一方、文化、芸術分野では、県の事業で小学校6年生に劇団四季の演劇鑑賞、そして中学1、2年生にはSPAC、これは静岡の舞台芸術振興センターなんです、そこによる演劇鑑賞を位置づけて、本物に触れるという体験を推進しております。

文化庁共生プロジェクトの取組を市内全体に広めて、新日本フィルハーモニーのメンバーの皆さんによる演奏の鑑賞もありました。伊東市が本拠地でありますけれども、IZUCCOミュージアムへの協力で市内の子供もミュージカルに参加したり、地域の専門家を講師とした陶芸教室ですとか、版画の体験、琴の演奏指導、そういった学校のニーズ、子供の成長段階、学年希望など実態に応じて取り組んでいます。教員をはじめ学校関係者、保護者からもこれらの体験の継続をぜひということで、期待の声が高まっております。

現在はスマートフォンですとか端末、テレビ等で情報が即時に手に入るという時代です。しかしながら皆さんも感じていらっしゃるように、これらの取組が今のその多感な子供たちにどれだけ大きな刺激や影響を与えるかということは、もう言うまでもないことであります。お伝えしてきました多方面での体験活動を今後も継続してまいりたいと考えております。

とは言いましても、国や県の補助事業による開催ですとか、民間主催の事業に協力するという形での開催、それから謝礼等の発生も含めた予算的な課題に加えて、現役のその著名な選手とか人材となりますと、先方の日程の調整、スケジュールも調整の課題となります。各学校も実は今はもうカリキュラムいっぱいいっぱいの状態ですので、そういった教育課程の

中で調整も図らなければなりませんので、お互いの調整を上手に図りながら、子供たちの成長の是非後押しになる、そういったことを計画的に進めてまいりたいと、そのように考えております。

以上でございます。

○議長（中村 敦君） 2番 大西將由君。

○2番（大西將由君） ありがとうございます。

確かに今聞いていますと、予算やプロの選手など日程調整で難しい面もあると思いますけれども、やはりあらゆる分野のプロや著名な方を招く機会というのは、地理的に不利な下田においては非常に重要な機会になると思いますので、行政としても今後さらに積極的に企画や講演をしていただくようお願いいたします。

次に、秋山選手の自主トレに関しましては今後も大いに期待したいと思います。やはり目の前でプロの選手のバッティングや守備練習を見学できるのは、子供たちはもちろん指導者にとっても勉強になるはずです。また、このようなトップ選手との交流のチャンスをみすみす逃してしまってももったいないことだと思います。

トップ選手の方が来ることになれば、ファンの方が下田に来てくれることになり、報道機関の取材人も増加していくはずです。交流人口が増えれば宿泊や飲食など、様々な面で経済的効果を発揮してもらうことにもつながります。また、下田でのキャンプ期間が長くなればなるほど、そして下田に来てくれる選手が増えれば増えるほど、その効果は増していくはずです。

そこで再度質問させていただきますが、継続的に様々な分野のアスリートを招致していくことについての体制的な在り方はどうあるべきかについて、お考えをお聞かせください。

○議長（中村 敦君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（平川博巳君） それでは継続的にアスリートを招致するにはということで、プロスポーツチーム等とのパートナーシップ協定などが挙げられるかと考えています。今回はJ3に所属してますアスルクラロ沼津とは、8月21日に協定のほうを結ばせていただきました。今後もやはりプロスポーツチームなどとの協力体制を推進していくことが重要なと、一つ思っています。

またスポーツコミッションとなるような、スポーツを推進するための組織の在り方を検討していければという部分も考えております。現在、スポーツ合宿、大会誘致の推進協議会の設置に向け準備をしているところですが、東京オリンピック・パラリンピックの下田市推進

協議会も生涯学習課のほうで運営のほうに携わってますので、そちらもうまく活用しながら、将来的には一体的に検討できるような組織にしていくのも一つの方策かなということで、今後、在り方については検討していきたいと思います。

以上です。

○議長（中村 敦君） 2 番 大西將由君。

○2 番（大西將由君） ありがとうございます。ぜひとも今おっしゃられた組織づくりを実現させてください。

これは先ほどの4つ目の質問の、スポーツ合宿の人数等に対しての結果も含めてですが、よくよく考えてみますと、例えば普通の観光で下田で5日間過ごしてくださいと言われると、案外難しいことかもしれません。これが少しだけ目線を変えて、下田でスポーツを5日間楽しんでくださいと言われたらどうでしょうか。

先ほどのマリンスポーツばかりでなく、大学生にしても社会人にしても、合宿や自主トレなど、下田での5日間の滞在が不可能ではない感覚だと思うのですが、私はそれほどスポーツは大きな可能性を持っていると。あえてスポーツ観光と言わせていただきますが、このスポーツ観光の推進を可能とするポテンシャルを下田は秘めていると感じています。

冒頭のほうで述べた、市民以外の人の力を活用するスポーツ観光の視点を持った上で、秋山選手誘致の継続性についてに戻りますが、秋山選手が引退したらそれで終わりではなく、次の世代の選手たちが引き続き下田に来てトレーニングをしてもらえるように、一個人に任せるのではなく、市としてプロ選手やトップ選手との関係性を持続させられるように、先ほどの組織の体制を整えていただきたいと思います。

また下田の場合、気候もよく砂浜もあり、トレーニングするための基礎的な環境は大変よいと思います。しかしスポーツ個別にまで落として考えますと、おのおのの環境ということでは様々な問題があると思います。

例えば、野球で大学の合宿やプロのキャンプを行うにしても、投手の場合は投球練習場、すなわちブルペンです、それが複数ないと厳しいとか、打撃練習でもバッティングゲージが幾つか必要になってくるとか、大量の練習着を洗濯する施設があるかとか、様々な練習設備が必要になります。

これに対しては一度に全ての設備を整えることは難しいと思いますが、市民スポーツとスポーツ観光、この両面の推進に関係すると思いますので、前向きに検討していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。この誘致の継続の質問については、ここで終わ

ります。

次に、健康づくりについてですが、特定健診の実績ですが数値的なことは分かりました。
ありがとうございました。

そこで再度質問させていただきますが、年々受診率が向上しておりますが、要因として考えられることは何でしょうか、お願いします。

○議長（中村 敦君） 市民保健課長。

○市民保健課長（斎藤伸彦君） まだまだ十分ではないんですが、特定健診の受診率が現在向上しているという理由について申し上げます。

まず第一には、市民の方々の健康意識が高まっているということを第一に挙げたいと思います。そして市民保健課、行政といたしまして今実施している内容なんですが、令和2年度から今年令和5年度まで特定健診の自己負担を無償化しております。通常は個人で受けますと1万円程度かかる検査費用が無償ということで、大変お得なので受けてくださいというようなコマーシャルをしているところです。

また多くの方が受診していただきやすいように受診枠を増加し、早朝健診とか土・日健診というものも職員を配置して実施しております。また、インターネットでの予約を開始し、受診者の利便を図っているという事業もしております。

また、今年はこれからになりますが、未受診者、まだ受けてない方の勧奨につきましては、年齢層や通知のレイアウト、また通知のタイミングなどを工夫しまして、これから受診勧奨をしていくところです。

令和4年度につきましては、年齢層にターゲットを絞って10月、11月に受診勧奨を行ったところ、勧奨された方の中の6%が受診してくださったということがありますので、今年度、今からになりますが、受診勧奨について努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（中村 敦君） 2番 大西將由君。

○2番（大西將由君） ありがとうございます。いろいろな対策により受診率が向上していることは分かりました。

私がそれと同時に感じたこととしては、その対策を考えて、それを実際に実行に移している現場の職員の方の大変な努力があるのだろうと、会社をやっている者として感じました。今後も頑張っていただきたいと。

いわゆる健康診断について大事なことは、より多くの人に受診してもらうこと、また受診

結果で何らかの所見が出た人に、改善への促しや導きをしていくこと。それで有所見者が改善アクションを起こし、これらの結果、健康状態を回復することという流れが重要だと思いますので、現状の受診率30%台が40%、50%、さらにそれ以上と向上していくよう、引き続き行政による様々な関与を期待したいと思います。

また、生活習慣病についてですが、これについては生活習慣病対策だけでなく、疾病対策全般にも言えることですが、若いうちからの対策が一番だと思います。その結果が医療費負担の減少にも寄与すると思いますので、市としても市民の健康管理についての働きかけをこれまで以上に意識的に行っていただきたいと思います。

次に、運動・スポーツに特化した健康対策事業についてですが、具体的でちょっと申し訳ありませんが、スポーツ省が行っている地方スポーツ振興費補助金による運動・スポーツ習慣化促進事業という非常に有利な補助に基づく事業もあるそうです。

国や県の補助制度も取り入れながら、生活習慣病対策に充てていくということも考えられますがいかがでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（中村 敦君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（平川博巳君） ありがとうございます。運動・スポーツ習慣化促進事業なんですが、こちらはスポーツ主管課と健康あるいは福祉、介護予防主管課との体制整備や関係団体との連携ということで、医療機関などとの連携あるいは協働体制の整備が必須事項となっておりますので、生涯学習課だけではなくて関係する課において事業実施のその可能性について、ちょっと他市町の取組も参考にしながら、今後探っていければと考えています。

以上です。

○議長（中村 敦君） 2番 大西將由君。

○2番（大西將由君） ありがとうございます。この事業については前向きに検討していただき、ぜひとも実行していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、スポーツ振興等健康づくりに関するグランドデザインの策定や実行に関してですが、御回答ありがとうございました。「ひとづくり、生きがいくくり」を主題にしている私としては大いに期待するところであり、その結果、市民の方みんなが健康になって、笑顔あふれる下田のまちになってほしいと思っています。

これについては恐らく行政だけではなく、専門家の方や下田の様々な関係者の方の協力であったり、県や国との連携も必要になるのではないかと思います。まずはそのような方々を取り込み、生涯学習課を中心にスポーツ振興を図るための体制づくりを始めること、そして

再度申し上げますが、会議、打合せだけで終わることなく、スケジュール、工程をしっかりと意識して取り組んでいただくことを要望しまして、私の今回の質問を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（中村 敦君） これをもって、2番 大西將由君の一般質問を終わります。